

誤り耐性量子コンピュータ への新技術

冷却原子で48論理量子ビットの誤り検出が報告され、量子コンピュータ開発は大規模集積化へと加速しつつあります。その発展を加速する新しい量子誤り訂正の方法や、様々な量子系で大規模化と誤り訂正の実装を可能すると期待される新技術が開発されています。そこで今回は、こうした新技術を中心に、最近の量子コンピュータや周辺量子技術の発展を議論します。関連分野で活躍する国内外トップ研究者、若手研究者から、現在の研究と将来展望についてご講演いただきます。

3月14日
13:00～17:00
(予定)

※開催時間は一般投稿
数で前後します。

講演者と講演タイトル (敬称略)

益 一哉 (産業技術総合研究所)	G-quatの紹介 (仮)
Stefan Kubicek (imec)	A 300mm Silicon Spin Based Platform for Quantum Computing
蔡 兆申 (東京理科大学)	エンタングルしたKPO猫状態
小芦雅斗 (東京大学)	誤り耐性量子計算のしくみと大規模計算のオーバーヘッド (仮)
山本俊 (大阪大学)	原子-光ネットワーク型量子コンピュータ (仮)
野口篤史 (東京大学)	超伝導回路の高性能化とその他量子技術への応用
藤田高史 (大阪大学)	半導体量子ビット大規模集積化のための量子ビット結合技術
黒川穂高 (横浜国立大学)	量子光電融合を担うマイクロ波-光量子インターフェース

本シンポジウムは、一般投稿を募集します。
関連する研究開発に携わる皆様からのご投稿を心よりお待ちしております。

企画：量子情報工学研究会

お問合せ：meeting@jsap.or.jp